

令和五年度一般選抜(Ⅱ期)問題 国語

埼玉医科大学短期大学

注意事項

- 一 解答は別紙答案用紙に書くこと。
- 二 解答を書く前に必ず受験番号・氏名を書くこと。

問題用紙四枚

答案用紙一枚

無断転載・複製を禁ず

## 注意事項

- 一 解答は別紙答案用紙に書くこと。
- 二 解答を書く前に必ず受験番号・氏名を書くこと。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(ア) 不断なのはいけない。責任をもって決断しなければいけない。どっちつかずの態度でいると、人に振り回されることになる。大人になるといふのは、決断の重さを引き受けることだ。

こんなツイートが流れてきました。これは人がどうあるべきかを言っているもので、はっきり価値を示している主張です。二項対立を複数使って組み立てられています。まず、「(ア) 不断 vs 責任ある決断」という対立。(ア) 不断はマイナス、責任ある決断はプラスです。次に、「どっちつかず」は「(ア) 不断」とイコールで、「人に振り回される」というのは、そうは書いていませんが、概念的に言えば「(イ) 的になる」ということですね。「(イ) 的」の対立概念は「能動的」ですから、「(ア) 不断」(イ) 的 vs 責任ある決断「能動的」となります。そして最後に「大人」が出てきて、「責任ある決断」能動的「大人」という等式をつくります。逆に言うと、「(ア) 不断」(イ) 的「子供」となります。加えて「決断の重さ」とも言っていますから、決断しないのは「軽い」ということになる。これがこの文に含まれる二項対立の分析です。そうすると、最終的に次のような結論になる。まずマイナスなのは、「(ア) 不断」(イ) 的「子供」です。プラスなのは、「責任ある決断」能動的「大人」です。イヤな感じがするかもしれませんが、人が何かを主張するときには、基本的に、そこに含まれている二項対立をこんなふうに分析することが可能なのです。(中略)

ここでマイナスの側に置かれているものをマイナスと捉えるのは本当に絶対だろうか？ という疑問を向けるのが、(1)脱構築の基本的発想です。自然と文化に関する例で言ってみるなら、たとえばオーガニック製品がよいといっても、それだけで生活を組み立てるなんて無理ですよ。逆に、自然を(2)テッテイ的にコントロールしきるぞ、なんてことも無理です。自然の力は人間の予想を裏切ることがしばしばで、土砂崩れが起きたり、地震が起きたり、原発事故が起きたりするわけです。だから我々は自然の(3)モウイをコントロールすることで安心を得ると同時に、都市生活の決まりきった(4)A(にうんざりして海に出かけて、突然波をかぶったり、色鮮やかな生き物が岩場の陰から出現するのに驚いたりすること、生の輝きを回復しようとする。都市生活と海辺の旅行を行ったり来たりするのです。そういうことなのであって、そのどちらかではないのです。

文明を批判して山に籠って(5)C(サク)に耽るような純粹主義にもならなければ、自然の(6)B(を馬鹿にして都市生活でひたすら金稼ぎに邁進することに居直るのでもなく、自然と文化が入れ子状になっているような、互いに対して泡立つような状況のなかで、我々は生きていかざるをえない。(7)C(とはそういうものだと思っ)んです。

(ウ)、人間はやはり秩序を求めて、何か一方向的な価値観を主張する場面が出てきます。それに対し、別の他者的な観点があり、押しやり押し返されたりというのを繰り返すような状態になります。脱構築的世界像だけをテッテイして生きようとすることは、それはそれでできない。(8)我々には何かを決断する必要があります。先ほどのツイートを思い出すなら、決断することが大人の責任だと言っていたわけですが、問題は、とにかく決断することばかりを強調しているところです。

確かに人は、物事を先に進めるために、他の可能性を切り捨てて一つのことを選び取らねばなりません。しかしそのとき、何かを切り捨ててしまった、考慮から(9)ハイジヨしてしまったということへの忸怩たる思いが残るはず。そしてまた、そのとき切り捨てたものを別の機会に回復しようとしたりすることも。すべての決断はそれでも何の未練もなく完了だということではなく、つねに未練を伴っているの。そうした未練こそが、まさに他者性への配慮なのです。我々は決断を繰り返しながら、未練の泡立ちに別の機会にどう応えるかということを考え続ける必要があるのです。

脱構築的に物事を見ることで、(10)偏った決断をしなくて済むようになるのではなく、我々は偏った決断をつねにせざるをえないのだけれど、そこに(11)D(なオーラの)のように他者性への未練が伴っているのだということに意識を向けよう、ということ

になる。それが脱構築の倫理であり、まさにそうした意識を持つ人には優しさがあるといふことなのだと思います。

二項対立はつねに非対称的に他者をハイジヨして、何らかの二項対立が背後にある決断をすることは(3)つねに他者を傷つけることになっているのではないか、という意識を持つと何もできなくなってしまうかもしれません。つまり行動不能に陥らせるものであるかのように脱構築の思想を捉える人がいます。

ここは僕の解釈になりますが、脱構築の思想は、「そもそも人間は何も言われなくたってまず行動しますよね」というのを暗黙の前提にしているのだと捉えた方がよいと思います。人間は生きていく以上、広い意味で暴力的であらざるをえないし、純粋に非暴力的に生きることは不可能であるということは、言わずもがなの前提なのです。だからこそ、ここが誤解を招くところだと思うのですが、この言わずもがなの前提の上で、そこにいかに他者の倫理を織り込んでいくかということが問題になっているのです。

しかもその織り込みにも限度がある。何かひとつイベントを企画するとして、誰もが満足して何も批判されないようなものなんてたぶんできないでしょう。時間的にも物質的にも制約があって、有限なわけですから。にもかかわらず、(4)できるだけのことは考えるし、もし批判があつたらそれはそれで対応する。

ですからもうひとつのポイントは、この立場から言うと、人が何かを決断したり行ったりしているとき、こういう他者への配慮が足りないという批判を起すことはつねに可能だということです。その意味で言うと、言葉は悪いですが、ひとつの決断を脱構築的観点から「潰そう」とすることはいつでも任意に可能なんです。

逆に言うと、人が何らかの決断をせざるをえないということは「救済」しかないのです。決断の許諾とそれがハイジヨしているものへの批判は、仕事をし、社会を動かしていかにざるをえないという現実性においてバランスを考へるしかない。そしてそのバランスをどうするかに原理的な解決法はないのです。(E)で考へるしかない。

(5)人は決断せざるをえません。先のツイートのケースでは、「大人は責任をもって決断するのだ」ということがある種の強さのように言われていました。それを言うなら、(E)込みでの決断という倫理性を帯びた決断をできる者こそが(6)本場の「大人」だということになるでしょう。

(千葉雅也『現代思想入門』による一部改変)

問一 傍線部(a)く(e)の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

問二 空欄ア・イに入る漢字二字をそれぞれ答えよ。

問三 空欄ウに入る適当と思われるものはどれか。次の中から選んで記号で答えよ。

ア そして                    イ しかし                    ウ むしろ                    エ いかにも

問四 空欄エに入る二字の言葉を本文中より書き抜け。

問五 空欄AくEに入る適当と思われるものはどれか、次の中から選んでそれぞれ記号で答えよ。

ア リアリティ                    イ ヴァーチャル                    ウ ロマンティズム                    エ ケースバイケース                    オ パターン

問六 傍線部(1)「脱構築の基本的発想です。」とあるが、どういうことか。次の説明文の空欄①・②に入る表現を本文中より示せ。ただし、①は四字、②は十字の表現である。

「( )①( )を使って、( )②( )することに対して、疑問を向ける発想」

問七 傍線部(2)「我々には何かを決断する必要がありますがやはりあります。」とあるが、同じ意味を表現している一文を、本文中より書き抜き、その最初の四字で示せ。

問八 傍線部 (3) 「つねに他者を傷つけることになっている」とあるが、そうした状態を、本文中の三字で示せ。

問九 傍線部 (4) 「できるだけのことではあるし、もし批判があったらそれはそれで対応する。」とあるが、これは、何の具体例か。文中より二十五字程度で書き抜き、その最初の五字を示せ。

問十 傍線部 (5) 「人は決断せざるをえません」とあるが、人の決断に対して、どう対応すべきだと筆者は言っているか。それが表現されている一文を、本文中より書き抜き、その最初の五字で示せ。

問十一 傍線部 (6) 「本当の『大人』」とあるが、君の考える「本当の大人」とはどういうものか。簡単に記せ。

問十二 本文の内容と最も合致するものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 生の輝きを回復するために、人は自然と文化の調和を取るようにならなければならない。
- イ 自然と文化との互いに泡立つ関係とは、二項対立が成立するための具体的な条件である。
- ウ 二項対立は、偏った立場を融合するので、人を行動不能に陥らせることはあり得ない。
- エ 人は、元来的に言われなくても、自ずと二項対立による決断をし行動している。

二 次の文章を讀んで、後の問いに答えなさい。

明治維新とは、同時代の西欧諸国と比べても(a)遜色のない、進歩的な革命であったと思う。

しかし、これほどの大革命を先頭に立ってリードした人である(1)大久保利通は、西郷隆盛の死で終結した西南の役から七ヵ月後、馬車で太政官へ向かっていたところを(2)オソわれて死ぬ。オソってきたのは旧武士の一群。大久保、四十七歳と九ヵ月で迎えた死であった。

西郷と大久保、西郷は三歳年長、鹿児島でも同じ町で育ったのだから、幼馴染で親友の仲。この二人は討幕までは同じ道を歩むがその後からは少しずつ離れ、最後は西南の役で(3)ゲキトツするまでになる。なぜ？ 維新以前の薩摩藩の子弟の教育法を調べていたら、少しばかりわかった気になった。

薩摩藩は藩士の子弟を、一言で言ってしまうえば、歴史的に九州男児の特質とされてきた事柄を以後も(ア)すること強さを維持しつづける、である。視野ならば狭いまままで終わるだろう。だが、個々の強さならば維持できる。古代のスパルタを思い浮かべてしまったのだが、西郷も大久保も、青年時代はこの社会で育つ。ただし(イ)から始まってイデオロギー的には(ウ)してはいても、脱皮には不都合な社会であっただろう。とはいえ、西南の役で西郷を(4)擁立した九州男児の多くは、このような生き方に疑問を持たなかった男たちではなかったか。であれば、彼らのほうが、量的には本流になる。少なくとも、本流は自分たちと確信していたのでは？ 反対に脱皮しつづける大久保の方こそが(5)であり、ゆえに裏切り者なのだ、と。

(A) 脱皮とは人間にとって成長である。(2)それまで保護してくれていた殻を捨て去りより大きな殻に移るのだから、初めのうちはびったり合わないのが不安になる。そこを我慢してしばらくすると、(3)新しい殻が合うようになってくる。同時に、(4)身体がより大きくなっているのも自覚する。

(B) 人の成長には、脱皮が必要なのだ。それも、時に応じて脱皮しつづけることが必要なのである。それを繰り返すたびに人間が大きくなり対応策も変わっていくのだから、国の行方を決める国政担当者には(エ)と言つてよい。大久保利通の一生は、鹿児島島のヤンチャ坊主から明治最高の政治家になっていく道程でもあったのだった。

岩倉遣外使節団の副使として洋行した際、寄港したサンフランシスコで大久保は洋服姿の写真をとって西郷に送ったのだが、(5)返事はこうだった。「(e)シユウタイきわまる。もう写真などとするのはやめなさい、(オ)に御座候。身長百八十センチの大久保には洋服は似合っていたと思うのだが、この種の美に対する感覚は西郷とは無縁のものであったよう。西郷隆盛と大久保利通の決別は、(Y)の勢いであったと思えてならない。

改変)

(塩野七生『大久保利通』一部

問一 傍線部 (a) (e) の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

問二 空欄ア～オに入る適語を次より選び、それぞれ記号で答えよ。また、それぞれの語の空欄に入る漢字一字を答えよ。

ア 質実剛( )    イ 絶( )条件    ウ ( )礎琢磨    エ 気の毒( )万    オ 首( )一貫

問三 空欄A・Bに入る適語を次から選び、それぞれ記号で答えよ。

ア もちろん    イ そうして    ウ たとえば    エ しかし    オ ゆえに    カ 一方

問四 空欄X・Yに入る適語をそれぞれ、次より選び記号で答えよ。

X (ア) 支流    イ 末流    ウ 源流    エ 亜流 ( )  
Y (ア) 必然    イ 蓋然    ウ 当然    エ 自然 ( )

問五 傍線部(1)「大久保利通」の特徴として、筆者が主張しているのはどんなことか。本文中の漢字二字の言葉で示せ。

問六 傍線部(2)「それまで保護してくれていた殻」を形成したものと筆者が考えている具体的なものを本文中より、書き抜きその最初の四字で示せ。

問七 傍線部(3)「新しい殻」の具体的なものを本文中より、十一字で書き抜きその最初の四字で示せ。

問八 傍線部(4)「身体がより大きくなっている」とあるが、それを具体的に表現している部分を本文中より二十字前後で書き抜き、その最初の五字で示せ。

問九 傍線部(5)「返事はこうだった。」とあるが、この返事は、西郷のどんな特徴を示しているか。本文中の漢字三字の言葉で示せ。